

# 持続可能な部活動実現のために

丹波篠山市中学校長会

## 《現状》

- ①2016年度調査では中学校教師の6割以上が過労死ライン(=月80時間以上の超過勤務)
- ②2018年度の調査では精神疾患による教師の休職者が全国で5077人
- ③ブラック企業のイメージ→教師という仕事を敬遠する傾向→倍率2倍を下回る自治体も
- ④本来の勤務時間 8:10～16:40
- ⑤下校時刻 17:45(部活動指導のために設定)
- ⑥部活動指導終了後に教材研究、授業準備、事務作業…等
- ⑦生徒のみで自主的な活動→ケガ・事故の場合は顧問・学校・設置者の責任に
- ⑧土曜日または日曜日の指導(原則半日、対外試合の場合は1日) ※全て超過勤務
- ⑨練習時間、練習日の適正化→保護者、生徒、地域の不満
- ⑩部活動支援員のみでの活動、引率は不可→負担軽減にはならない(人材探しも厳しい)
- ⑪合同チームによる負担増(移動、調整、ケガ等への対応…)

## 《中教審答申を実現するために》

- ①2019年に出された中教審答申では超過勤務の上限は月45時間 年間360時間
- ②月あたりの超過勤務45時間以内→毎日18:00に退庁すれば可能
- ③18:00退庁のためには下校時刻を16:40(勤務終了時刻)に設定すれば可能
- ④文科省から「学校の働き方改革」の指導強化→戸惑う学校現場

## 《持続可能な部活動のために》

- ①安全な部活動および勤務時間適正化のためには複数顧問制を徹底すべき
  - ・平日は前後半で指導者が交代し、教材研究や事務処理等の時間確保
  - ・土曜日、日曜日は複数の顧問が交替で指導
  - ・出張等で不在の場合にも対応できる
- ②各校の職員数に合わせて複数の顧問がつける部活動数が適正数
- ③安全かつ持続可能な部活動のあり方を市全体で協議
  - ・生徒数の減少に対応した適正な部活動数の実現
  - ・教職員の勤務時間適正化は学校だけでは不可能
  - ・行政の理解と協力が不可欠→市民への啓発